

ネットワークを作っていくことを、ネットワーキングと呼んでいる。動きと広がりを感じられ、私の好きな言葉の一つである。例えば新しい仕事にいたり、趣味のサークルに入ったりして、新しい人間関係が広がっていく様子が目に浮かんでくる。

自分はいったいどれくらいのネットワークに属しているのだろうか。親戚や近所つきあい、学生時代の友人、仕事やサークルの仲間といったリアルな関係だけでなく、一度も会ったことがなくてもネットでやりとりしている人はたくさんいる。そしてそのネットワークは固定化されているわけではなく、刻々と変化しており、いつも私は年賀状を書く時期にこの変化を実感している。このようにネットワークが状況に応じて



あすへの 話題

2017. 5. 24

て次々に形を変えていくことを、国際社会経済研究所の松永統行さんは、ポリモルフィック（多形的）と名付けた。

ネットワークキング

それではどのように人はネットワークキングしていくのだろうか。その際のキーになるのが、ハブとなる人々である。様々な空港とつながっている大空港をハブ空港と呼ぶが、ハブの人も同様に多くの人とつながっており、コミュニケーション力も極めて高い。私の周囲で思い当たるのは、なでしこジャパンのチームドクターを務めたことのある、昭和医療技術専門学校の山藤賢校長である。普通なら出会えないような人をお互いの相性も考えながら惜しげもなく紹介してくれる稀有な人物で、彼のおかげで私のネットワークも多形的に広がっている。

中島みゆきの歌「糸」にも、「逢うべき糸に 出逢えることを 人は仕合わせと呼びます」とある通り、良いネットワークキングこそが幸せを作る源だと思つ。